

・・・秋の夜長のお話・・・

この話は住民協とは全く関係のないどうでもよい秋の夜長のバカ話です。

～その1 多肉植物～

多肉植物がブームです。結構長いブームですが私の手元に小さな鉢がプレゼントされたのは昨年の春ごろです。1つ届くと続いて集まってきます。不思議です。ある日娘が手の平に乗るくらいの小さい鉢を持ち帰りました。小さいのに肉厚の元気な株です。時々水をやってと育て方の本に書いてある通りごくたまに水をやっていました。葉っぱの上部が黒くなっています。もらった当初から黒くなっていたかはさだかではありませんが、ちょっと気になったので、ハサミで切ろうと思い立ちました。ところが・・・あれっ?! 切れない! えっ?! 切れない!! 一瞬躊躇しましたが、ある想像がわき起こり、エイっと鉢から抜いてみました・・・ヒャー!!! なんととんがったハリガネが根っこのかわりに差し込まれていました。ハハハハハ 作り物だったんですよ。素材は硬いゴムです。よくできてます。黒ずんできたから切ろうと思ったくらいですから。水もやってました。だから勢いがいいのかと思ってましたよ。見に来てください。騙されます。



～その2 高齢者運転免許更新～

75歳以上の運転免許更新前に認知機能検査を受けることになっています。7月に受けました。受けるにあたって友人がテスト問題を貸してくれました。記憶テストの事前学習ですね。すでに更新された皆様はおわかりでしょうが、「戦う道具」「花」「電化製品」「家具」と分かれています。戦う道具には「大砲」「機関銃」「日本刀」「戦車」の絵が描いてあります。それをテストでは1回見せられて記憶する。しばらく他の話題が提供されて、はい、さっきのカードにはなにが描いてありましたか? とかかれるわけでしょう、きっと。そこで不思議なのは私昭和21年生まれ。大砲とか機関銃とか日本刀とか見たことないのですよね。そりゃ映画や写真で見て知ってます。でも実物は知らない。そこでこれは何ですか?と言われて「私知りません」っていったらどうするのだろう。記憶も何も現物を知らないのだから。そんな突っ込みをしながら《全部》記憶しました。そしてテスト当日、テストにだされたのはその内の1パターンのみ! おわかりですか? 私全部記憶したんですよ。しかし、今! 見せられた絵はあれっ? 百合だっけ? バラだっけ? なんだったかなあ。全部思い出せるが、今! の記憶がない。トホホホ呆れてものもいえません。

校区住民協 副代表 龍 村 敦 子
(山の根自治会会長)

令和3年10月度役員会

開催日時と場所：2021年10月2日（土）13時

30分～15時50分、久木会館 参加者27名（内役員16名）

議題

(1) 行政からの連絡事項

①水道料金の値上げについて

市下水道課担当から資料に基づいて、下水道料金の値上げについて説明があった。条例の議会承認を経て、2022年7月1日曜料金改定を実施する予定。10月度の複数個所で市民説明会を実施予定。

(2) 事務局からの連絡事項

①返子市住民協連絡会（9・24実施）報告

★返子市地域防災計画の説明：肝心の行政と自主防災組織等住民との接点となる地区防災拠点についてはいまだ不明であることが露呈した。この点に関し、久小区住民協としては、久小が地域防災拠点となることも加味して、減災部会を中心に行政のアイデア立案を更に要求してゆくこととする。

(3) 審議事項

①住民協ひろば特別号5号の編集について

龍村ふれあい部会長から進捗状況の説明と提示された案に基づく討議があった。テーマは「住民の身近にある福祉」で、「気づく・つなげる・広げる・福祉でまちづくり」が表題である。

大筋で異論なく、今後これまで出来あがっている資料を基にして、読者の総括と行政や社協等関係する組織に役割等を執筆していただき完成となる。発行予定は12月1日。

②「学校が地域に期待すること」をテーマに、各校長より講演があった。

★久木中学校・川名裕 校長

門の前で毎朝旗振りをしていて、こちらが挨拶しても、こわばった表情で返答もしない子が多かったが、繰り返し繰り返し声がけしていると、段々と子供たちの態度が軟化して挨拶の返事をしてくれる子が増えてきた。

今の子供は、大人のまねはするが大人の言うことを聞かない風潮が強い。住民協とは、防災教育として、避難所のパーテーション組み立てを一緒にやってもらったが、今後も機会を捉えて、子供たちが自分の価値観を自分で認めるような機会をあたえて頂きたい。

子供たちには必要な存在として認められる事が、

する。

★返子市自治基本条例の制定について：住民自治協議会に関して、そのバックボーンとなるべき返子市自治基本条例の制定が、棚上げされたままであるが、市長より、市民協働課に対し、先ずは返子小学校区の住民協設立に精力的に取り組むよう指示が出されており、目途がついた段階で条例制定を目指す旨報告された。

★「広報ずし」に住民協情報を掲載する件：常設は難しいの回答。「広報ずし」に住民協情報の掲載を要望するには、企画を出して特集号で掲載してもらう様なことを考える必要があり、今後議論してゆきたい。

なによりも成長の過程で重要だと考えている。

★久木小学校・池上慎吾 校長

配布資料に基づいて4,5,6年生に実施したアンケート結果について説明された。

アンケート結果にもあるように、地域の人から怒られたことがない子供が大半である。子供を褒めるのは簡単だが、叱る事は難しい。地域ぐるみで、子供の成長を見守り、ともに褒め、ともにダメな事はダメと叱れる社会であって欲しい。

そして、久木で学んだ子が、全国、海外で活躍し、また久木に戻って、地域に貢献してくれるような子供に育ってくれたら素晴らしいと思っている。

★講演後、意見交換が行われ、以下のような意見が出された。

・道を聞かただけで、防犯ネットに掲載されている事例もある、父兄からの影響か、警戒心を強くもつ時代となっていて、他人が叱るのを素直に受け入れられない風潮が感じられる。

・久木隧道は歩行者通路の幅が狭く、子供たちが横一線になって通行して、お年寄りの通行を阻害している場面を目にすることがある、障がい者、高齢者に気遣う指導をしてほしい。

・久木で朝市を開いているが、子供たちにテント設置などに参加してもらうなど、住民とのコミュニケーション作りの場を提案してゆきたい

《 特別寄稿： 教育の現場から 》

久中・川名裕校長、久小・池上慎吾校長のお二人の
学校長が、10月度住民協役員会に出席された機会
に、普段思われていることを寄稿して頂きました。

・ ・ 一挨拶一撈 ・ ・

毎朝の校門前での挨拶。『おはようございま
す。いってらっしゃい。』の投げかけに『おはよう
ございます！いってきま〜す！！』の元気な返
事。何とも爽やかな気持ちになる、私にとってと
ても貴重で嬉しい時間だ。ハイランド方面からや
って来る小学生、小坪・山の根・久木神社方面か
ら来る本校の生徒。通勤途中の大人の方も併せて
ほとんどの人たちが気持ちよく応対してくれる。
毎日無言にて通り過ぎる人にも、『雨垂れ石をも
穿つ』の意気で投げかけ続けている。最初は何も
反応しなかった小学生。少しずつこちらを意識し
てくれるようになり、手を振ったら振り返してく
れるようになった。まだ声は出ないがマスクが動
くようになって、これまた嬉しい。

自転車の後ろに跨がっている保育園児。ご機嫌
斜めの日は無言だが、ニコニコの日ばっかりの
元気な声。それを聞いたお父さんが、運転し
ながら後ろの子どもの手を握りしめる。これまた
いい光景。いつも気持ちのいい挨拶をしてくれる
子どもの保護者の方が、『いつもありがとうございます』

久木中学校 校長 川名 裕

います。』とそれは素敵な笑顔で声をかけてくれ
る。

基本的に子どもは大人の言うことを聞かない。
でも、大人の真似はする。

私の教育理念である。学校で、教員が気持ちの
いい挨拶をする。思いやりのある行動をする。教
員が協力して仲良く仕事をする。大人のいい人間
関係が、子どもたちの最高のモデルなのだ。

『挨拶』の語源は禅語の『一挨拶（いちあい
いっさつ）』。『挨拶』には『押す（心を開く）』、『撈』
には『迫る（心に近づく）』という意味がある。己
の心を開いて、相手の心に近づいていく。挨拶す
る側が心を開くことで、挨拶された側も心を開く。
そうしてお互いの関係を築いていく一歩にして
いく。『一挨拶一撈』は相手に言葉を投げかけ、その
反応で相手がどの程度の悟りの深さであるか値
踏みするものとして使われていたのだそうだ。

これから秋が深まり木々が鮮やかに色づく季
節。私たち人間の間でも、心に染み入るような『一
挨拶一撈』を交わしたいものだ。

・ ・ 地域に愛される 『久木小学校』を目指して ・ ・

久木小学校 校長 池上 慎吾

日ごろより、住民協をはじめ地域・保護者の
皆様には、本校の教育活動に格別のご理解とご
協力を賜り重ねてお礼申し上げます。

さて、久木小学校は今年度で創立72周年を迎
えました。元々本校は昭和11年に地域住民の
方々の強い要望により、逗子町立逗子小学校久
木分教場として創立いたしました。それ以降、
地域の方々に支えられながら地域に根差した学
校として今日まで歴史を刻んできております。
親子2代、中には3代で本校出身の方も少なく
ないと思います。校長室には、昭和24年当時の
木造校舎の礎石や当時の運動会の風景など大変



貴重な写真を展示しております。また、昭和26
年に作曲家の犬中寅二先生によって作曲された

本校校歌の貴重な直筆の譜面も展示しておりますので、ぜひお気軽に校長室までお立ち寄りください。

ところで、久木小学校と言うと皆様は真っ先に何を思い浮かべますか。きっと多くの方が「自然に囲まれた学校」とお思いになるのではないのでしょうか。春は桜、そして秋にはなんともいっても「ギンナン」ですね。久木小学校は「ギンナン」の学校と言われるくらいイチョウの木がシンボルの学校です。本校の児童の大半は「ギンナン」の匂いなどへっちゃらなようです。

このように、これまで70年以上も地域の方に支えられ、共に歩んできた久木小学校ですが、これからも末永く地域の学校として親しまれていくには、やはり今現在、本校に通っている子どもたちが母校や自分たちの住んでいるこの久木・山の根の地域を愛せるよう、地域の魅力や特色を、私たち教職員だけでなく地域の皆様からも教えていただくことが大切だと思います。地域には様々な職業の方がいて、様々な知識・技能をおもちの方がたくさん住まわれておられます。子どもたちにとっては地域の皆様は素晴らしい先生でもあります。そして、地域という子どもたちにとって身近な生活圏の中で、挨拶やマナー、交通安全、防犯・防災、福祉、環境そして地方行政のことについて学ぶことも大変意義あることです。

ところで、この9月に本校4～6年生を対象

に、「子どもたちと地域との関わり」についてアンケートを取ってみました。アンケートの結果を2つほど紹介いたします。まず、「あなたは久木・山の根のまちが好きですか」という項目で、「好き」と回答したのは4年生81.3%、5年生が66.7%、6年生が56.4%でした。

では、久木・山の根のどんなところが好きなのかを自由に回答してもらったところ次のような記述が多かったです。

- ・自然がたくさんあって、みんな優しい
- ・都会でもなく、田舎すぎでもなく住みやすいところ

- ・みんな明るくて優しいところ
- ・久木神社のお祭り、お祭り大好き！
- ・公園がいっぱいあるところ

また、「久木・山の根にこれからも住みたいですか」という項目では、「ずっと住みたい」と回答したのは4年生が76.8%、5年生が61.3%、6年生が34.7%でした。この項目では学年が上がるにつれ「住みたい」とこたえた子どもが少なくなっていますが、これは学年が上がれば生活圏の広がりとともに、他の地域への関心も広がります。これは至極当たり前のことなのです。私の願いは、久木・山の根で育った子どもたちが、これから大きく成長し、やがては地域を飛び出し、全国、さらには海外で活躍し、そして最後は久木・山の根に戻って、地域のために何か還元してもらえれば素敵だなと思っています。

編集後記

新型コロナウイルスの新規感染者数が毎日報道されているが、ここのところ減少の一途を辿っている。最近では東京都の感染者数は50人を、神奈川県でも10名程度、逗子市でもここのところ感染者数はゼロとなっている。ウイルス接種の接種率の進行が大きな要因と考えられるが、今一つ明確な理由がはっきりしないものの感染者数が減っているのは事実である。ウイルスの遺伝子構造が数珠の様に長く繋がりが変異し易いものであり、変異が容易に起こることから、これから新しい変異型ウイルスが発生し、感染者が急増することは想像されることである。暫くは以前の様にコロナウイルスが消滅することは無く、所謂「with コロナ」の状況が暫く続くものと思われるが、一方で現下の様な感染状況を勘案すると以前の様な抑制気味の戒厳状況から一步、通常の生活に近づく様なライフスタイルの在り方も再検討する時期である様な気がする。コロナを意識しながら、あるべき行動を模索する久木小学校区住民協会の久木朝市も11月28日の久しぶりに開催が決まり、対応も会館内部を使用することを検討し始めている、コロナを意識しつつも本来あるべき活動を考える時期に来ている。

・事務局からお知らせ・

11月28日（日）久木会館で朝市開催の予定です。盛り沢山の催しを企画、詳細は掲示板等でお知らせします。

事務局長 石井達郎